

平成 27 年度 学校評価 総括評価表

徳島県立穴吹高等学校

○ 評価基準 A:十分に達成できた / B:概ね達成できた / C:十分には達成できなかった / D:全く達成できなかった

No.	重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
1	主体的・積極的に学習に取り組む姿勢を育成できるような授業の工夫をする。	評価指標 1 他教員の授業を1・2学期、各3人以上の授業を見学する。教員(3人以上)の授業見学率100%を目指す。 2 生徒・教員による授業への評価 ① 生徒への授業アンケートで「授業にまじめに、また積極的に取り組んでいますか」の質問に対し「大変当てはまる」「当てはまる」と回答する生徒の割合が全学年70%以上を目指す。 ② 教員への授業アンケートで「生徒を中心とした授業の展開ができたか」の質問に対し「そう思う」「だいたいそう思う」と回答する教員の割合が70%以上を目指す。 活動計画 1 1・2学期に各一週間すべての授業を公開し、他教員の授業を参観し、点検することにより、自らの授業力の向上やスキルアップを図る。また参観される側も、参観シートで指摘を受けることにより授業実践力の向上を図る。 2 生徒・教員へ授業についてのアンケートをとる。公開授業での他の教員の授業手法や、アンケートでの指摘等を取り入れ授業力向上を図る。	評価指標の達成度 ※ () 内は昨年度 1 教員(3人以上)の授業見学率 [1学期] 85% (93%) [2学期] 79% (87%) 年間平均 82% (90%) 2 ① [1学年] 77.1% (73.7%) [2学年] 74.0% (59.5%) [3学年] 71.6% (70.9%) 生徒全体 74.2% (68.0%) ② 「そう思う」33.3% (7.7%) 「だいたいそう思う」50.0% (57.7%) 教員全体 83.3% (65.4%) 活動計画の実施状況 1 6月9日～15日と11月17日～24日の各一週間の公開授業週間とし、すべての授業を公開。3人以上の教員の授業見学を目標とし、見学後には参観シートへ記入した。参観シートには「参考になった点・自分の授業で生かせる点」や「この授業で注意・改善した方がいい点」を書く欄を設け、参観する側もされる側も授業実践力を向上できるようにした。参観シートは後日授業者へ返却した。 2 12月中旬に生徒と教員へ授業アンケートを実施した。公開授業週間の参観シートは各教員に返却し公表したが、その活用法は各個人に任せるにとどまっている。	(評定) B (所見) 活動計画に関しては計画通りに実施できた。評価指標の達成度については、授業見学率以外において昨年度よりも向上した。特に、「生徒を中心とした授業」実践により、授業への積極的な参加につながったと考えられる。今後継続的に授業を工夫・改善する必要がある。	○ 教員の個々の能力アップにつなげてもらいたい。 ○ 生徒が「授業にまじめに積極的に取り組んでいる」姿勢が見えるのであれば、先生もそれに対しての評価をしてほしい。 ○ 生徒自らが学び取ろうとする姿勢を育てる授業づくりのために、各教科での教科会を定期的に行う。	
		2 将来への目標を考えさせることを通して、学習意欲の向上と基礎学力の伸長を図り、就職・進学目標を達成する。 評価指標 1 学習意欲向上のため各種資格試験・検定試験の受験を督促し、各検定において全校生徒の20%以上の受験率を目指す。 2 基礎学力養成のため校内漢字テストを実施し、事前指導を充実させることで、優秀者の割合を各学年において20%以上を目指す。 3 学習時間の定着を図るため家庭学習を促し、特に定期考査中、各学年において一人あたりの1日平均学習時間2時間以上を目指す。 4 学力向上を図るため読書活動を推進し、一人あたりの年間図書貸し出し数4冊以上を目指す。 5 将来の目標を立て実現するために、進路資料室の利用・オープンキャンパス・職場体験への参加を促し、全校生徒の20%以上の利用と参加を目指す。 活動計画 1 教科担任や担任が積極的に受験を呼びかけ、取得すれば履歴書や調査書にも記入できることを低学年から知らせていく。 2 実施日に向けて国語科の授業で事前対策を実施し、また再テストなどの事後指導を学校全体で継続して行う。 3 考査期間中の6日間、家庭学習調査を実施することで、生活の見直しや学習の偏りなどを担任が声かけする。 4 毎月1回の「穴高読書の日」において新着図書・推薦本案内等の情報を発信するとともに、放課後読書会を年間2回以上行うことで、生徒が本に触れる機会を設ける。 5 ホームルーム活動や総合学習の時間を利用して資料室の活用方法を知らせ、オープンキャンパス・進路ガイダンス情報などを知らせる。	評価指標の達成度 1 数検受検者 2.3% ・保育技術検定受検者 20.3% ・ビジネス文書検定受検者 27.9% ・漢検受検者 23.1% ・英検受検者 9.5% 2 年間4回のテストにおける優秀者の割合 1年生 29.2% 2年生 53.8% 3年生 41.8% 3 一人あたりの1日平均学習時間 1年生 2.3時間 2年生 2.3時間 3年生 1.8時間 4 一人あたりの年間貸出冊数 4.4冊 5 「よく」及び「ときどき」利用した者の割合は全校生徒の23.3% 1年生 0.06% 2年生 13.0% 3年生 55.6% 活動計画の実施状況 1 各HRや授業で全体に呼びかけるだけでなく、個人的な呼びかけも行った。また、資格や検定の重要性について、HRで指導した。 2 国語科と担当が協力して事前指導を実施した。また事後指導として、全学年同じ日に学習日を設定した。 3 家庭学習時間を記入させることで、生徒の学習状況を担任が把握できた。また面談の際に学習時間記入用紙をもとに話をし、勉強不足の事実を保護者にも伝えられた。 4 校内読書会を1回、放課後読書会を2回実施した。図書委員による広報活動についても実施できた。 5 3年生の利用者が昨年度よりやや減った。ただスマートフォンの普及により、生徒が自ら情報を調べやすいこともあるが、1・2年生に資料室の活用方法を知らせる機会を年間計画に入れることができなかった。	(評定) B (所見) 活動計画の実施状況については、概ね計画どおりに実施することができた。評価指標の達成度に関しては、昨年度に比べ、受検率が目標値に達した検定の数は増加した。しかし逆に受検率や合格率が減少した検定もあった。他の指標についても、昨年同様学年による差が大きく、全体としての達成度は低調であった。	○ 在学中に取得可能な資格は積極的に受験させるべきである。 ○ より一層の努力をお願いしたい。 ○ 進学や就職において、検定や資格がどのように評価されているかについて、自分で調べさせることにより、検定試験の受験や資格取得への意欲を高める。 ○ 引き続き国語の授業で事前指導を実施し、漢字検定合格と基礎学力の定着をめざす。 ○ 家庭学習調査を定期考査ごとに活用し、家庭学習の定着につなげる。 ○ 読書会だけでなく、新着図書案内の発行頻度を上げたり、多くの生徒に図書のリクエストを募ることで読書活動を啓発する。 ○ 情報機器の普及により、生徒自身による情報収集が容易になり、資料室の利用者が減少している現状から、来年度は、オープンキャンパス・進路ガイダンス・インターシップ等の体験学習への参加を促す。	
3	1 基本的生活習慣の確立を図るために、遅刻指導、頭髪・服装指導に重点を置く。また学校や社会のルールを守り、正しい行動がとれる生徒を育成する。 2 「学校いじめ防止基本方針」に沿って、いじめ等の防止に関する基本的な考えを統一し、未然防止に努める。	評価指標 1 ① 毎月行う頭髪・服装指導の頭髪再指導者数が1ヶ月平均5名以下を目指す。 ② 1年間を通じた1日平均の遅刻者数が5名以下を目指す。 ③ 定期的・不定期的に校内巡視・校外巡視を行うことにより、問題行動の未然防止につなげ、特別指導を受ける生徒の減少を目指す。 活動計画 1 ① 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。 ② 1週間に2回以上遅刻した生徒をその次の週に個別に指導する。 ③ 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。	評価指標の達成度 1 ① 頭髪の再指導者数は1年10名、2年3名、3年12名、延べ25名だった。1ヶ月平均にすると、2.8名(1.2%)で、目標を達成することができた。 ② 全校生徒に対する遅刻者数の割合 平成25年度1.9%(1日平均5.0名) 平成26年度1.8%(1日平均4.3名) 平成27年度1.3%(1日平均3.2名) ③ 校内巡視は、全職員が交代で155日実施した。授業中巡視は45日実施した。校外巡視は午前中授業の日を中心に、合計57日実施した。 2 「学校生活に関するアンケート」2回、ホームルーム活動1回、職員研修1回、部活動生集会4回、生徒会によるいじめ未然防止のための啓発運動10回、合計18回実施した。 活動計画の実施状況 1 ① 毎月1回、合計9回実施した。学年別に全職員で取り組んだ。違反生徒は、後日学年主任、生徒課長が中心となり、改善が見られるまで再指導した。 ② 遅刻者数が減少したこともあり、遅刻の多かった者への指導は、学年ごとに行われた。月末や学期末にまとめて指導できる状態であった。 ③ 校内巡視は、基本的に毎日全教職員が交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。校外巡視は、午前中で放課のある日を中心に、JR穴吹駅周辺、脇町の量販店周辺などを見て回った。 2 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年間計画に沿った活動を実施した。	(評定) A (所見) 頭髪再指導の人数は延べ25名と、昨年度数より4名減少した。長期休暇の前後の再指導が多くなる傾向がある。遅刻者数は昨年度より累計で180名減少、1日平均でも1名以上減少し、目標も達成できた。授業開始後に教室外にいる生徒や学校周辺での問題行動は目立たなくなった。特別指導の数も昨年度より半減した。「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年度当初の計画通りいじめ等の未然防止のための活動を実施することができた。また、生徒に対する「学校生活アンケート」からも特に問題となる内容もなかった。気になる表現のある生徒に対しては個別に面談等を実施した。	○ 長期休暇中に頭髪等の乱れが多くなる傾向があると思うので、ルールを守れるようにこれからも指導していただきたい。 ○ 引き続き、頑張ってもらいたい。	
		2 いじめ等の未然防止のためのホームルーム活動・職員研修会・学校行事等を10回以上実施する。 活動計画 1 ① 毎月の頭髪・服装指導以外にも、随時気になる生徒を指導する。 ② 1週間に2回以上遅刻した生徒をその次の週に個別に指導する。 ③ 計画的、継続的に校内巡視・校外巡視を行うとともに、気になる場合には随時巡視を強化する。	評価指標の達成度 2 「学校生活に関するアンケート」2回、ホームルーム活動1回、職員研修1回、部活動生集会4回、生徒会によるいじめ未然防止のための啓発運動10回、合計18回実施した。 活動計画の実施状況 1 ① 毎月1回、合計9回実施した。学年別に全職員で取り組んだ。違反生徒は、後日学年主任、生徒課長が中心となり、改善が見られるまで再指導した。 ② 遅刻者数が減少したこともあり、遅刻の多かった者への指導は、学年ごとに行われた。月末や学期末にまとめて指導できる状態であった。 ③ 校内巡視は、基本的に毎日全教職員が交代で実施した。校舎内外の死角になりそうな場所を中心に巡視した。校外巡視は、午前中で放課のある日を中心に、JR穴吹駅周辺、脇町の量販店周辺などを見て回った。 2 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年間計画に沿った活動を実施した。	(評定) A (所見) 頭髪再指導の人数は延べ25名と、昨年度数より4名減少した。長期休暇の前後の再指導が多くなる傾向がある。遅刻者数は昨年度より累計で180名減少、1日平均でも1名以上減少し、目標も達成できた。授業開始後に教室外にいる生徒や学校周辺での問題行動は目立たなくなった。特別指導の数も昨年度より半減した。「学校いじめ防止基本方針」に基づき、年度当初の計画通りいじめ等の未然防止のための活動を実施することができた。また、生徒に対する「学校生活アンケート」からも特に問題となる内容もなかった。気になる表現のある生徒に対しては個別に面談等を実施した。	○ 頭髪の再指導者数は年々減少している。さらに指導を継続するとともに、今後も終日正装を徹底する。 ○ 遅刻者数は、設定目標を達成できた。次年度さらに減少するよう、継続的な指導を実施する。特に、6月・9月・10月・11月の遅刻者数が多いため、この時期の遅刻者を減少させるよう指導する。 ○ 特別指導を受ける生徒の数は昨年度より半減した。引き続き、巡視による問題行動の未然防止に努める。 ○ いじめ等の未然防止のための活動は今後も計画的・継続的に実施する。	

重点目標		評価指標と活動計画	評価指標の達成度	総合評価	学校関係者評価	次年度への課題・改善策
4	1 月1回アースデー(環境を考える日)を設け、ゴミの分別とポイ捨て禁止、節電・節水を呼びかける。 2 防災クラブを発足させ、地域防災に対する関心を高める。	評価指標	評価指標の達成度	(評定) A	○ すばらしい成果である。今後も、より高見をめざして頑張ってもらいたい。 ○ 続けていることにより、良い傾向が見られているので、これからも継続してほしい。 ○ ぴかぴかコンテストの取り組みはすばらしい。評価の観点と規準を生徒に明示した方がよい。	○ 節電・節水に関しては、移動教室の際の消灯や節水を意識できるよう今後も継続して電気・水道の使用量を生徒に知らせたりポスター掲示を行ったりして注意喚起を行う。 ○ 美化意識の向上により、教室だけでなく、廊下や階段のゴミを気にする生徒も出てきたので、ロッカー上にゴミを置かないよう美化委員を中心に呼びかけを行う。 ○ 校内で実践した防災に関する活動や内容を、地域や家庭に還元できるような活動を計画する。
		1 ① エコキャップの回収個数 20,000 個を上回る。	1 ① <エコキャップ個数> 4～1月の生徒一人あたりの個数 138 個 総数では 31,340 個 23年度 24年度 25年度 26年度 個数 10.1 85.6 96.5 311 総数 14,686 21,495 23,148 70,000	(所見) エコキャップの回収個数は、企業や地域から大量に回収できた昨年度より減少したものの、一昨年度よりは約 7000 個増加した。特に昨年度から地域や家庭からの回収が増える傾向にある。美化意識が育ち、一部の生徒を除いてほとんどの生徒がきちんとゴミの処理ができています。節電・節水については前年度を大きく上回って目標を達成することができた。防災クラブでは、初年度の活動であったにもかかわらず、生徒は意欲的に活動できた。		
		② 電気・水道の使用がそれぞれ 180,000kw, 3,800 m ³ を超えない。	② <電気水道使用量> 電気：4～12月の電気使用 113,188kw 前年度4～12月 131,456kw 18,268kw 減 前年度より 13.9%減 水道：4～11月の水道使用 1,353 m ³ 前年度4～11月 2,517 m ³ 1,164 m ³ 減 前年度より 46.2%減			
		2 ① 年間 10 回以上活動する。うち地域の方とつながる活動を 2 回以上実施する。 ② 年度初めと年度末のアンケート結果から意識の向上を確認する。	2 ① 計画通り実施できた。穴吹町内の自主防災会や交流先の福祉施設と連携して活動できたことは、生徒の自信にもつながった。 ② 今年の活動を通して自分が変わったという生徒がこれまでの防災学習と比べて大きく増加している。(62.9%⇒95.7%) また、それぞれの活動の内容について「よくわかった」「だいたいわかった」の割合が、全体の 1/2～2/3 以上を占め、体験的・実習的な各活動を重点的に取り入れた効果が認められる。(例) 要支援者の避難誘導 91.3% 毛布を使った担架の作り方 86.9% 防災ずきんの作り方 56.4%			
活動計画	活動計画の実施状況					
1 ① 各清掃分担が分別できているかを確認し、月1回美化委員と JRC 部員がキャップを回収する。	1 ① 教室以外の場所のエコキャップ個数調べは、JRC 部員が行った。年間随時、家庭からの回収を受けつけた。4～1月の総数 31,340 個のうち、地域や家庭からの回収が、13,498 個 (43%) を占めるようになった。					
②-1 毎月の電気・水道の使用状況を ISO コーナーに掲示し、省エネを呼びかける。 ②-2 美化委員がポスターを制作したり、アースデーの朝 SHR でポイ捨ての禁止や節電・節水をよびかけたりする。	②-1 計画通り実施できた。 ②-2 アースデーは 4 月より 1 月までで 7 回実施した(昨年度は 8 回)。美化委員は、朝の SHR で分別やエコを呼びかけ、昼休みに教室のエコキャップを回収し数を数え、帰りの SHR で行ったアースデーアンケートを集計した。					
2 ① 関係諸機関と連携しつつ、年間計画をもとに実施する。 ② 体験後、活動を振り返って内容と感想を記録する。	2 ① 県立防災センター・県立防災人材育成センター・美馬市社会福祉協議会・徳島大学等の協力・連携を得て計画通り実施できた。 ② 計画通り実施できた。特に 10 月までの活動は華の丘祭で掲示物にまとめ、発表することができた。					
5	1 生徒会活動、学校行事を通して、自主的、実践的な態度を育てる。 2 部活動のより一層の活性化を図る。	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B	○ 穴吹駅などの清掃活動がテレビや新聞で取り上げられている。結果だけでなく、事前に PR をすることで、地域からの関心が高くなるのではないかと、生徒の意識も高まると思う。 ○ 部活動は、地元の中学生にいかん PR できるかがポイントになる。	○ 各部の清掃活動について、重点的にしてほしい場所や時期を指定する。 ○ 生徒数が減少するなかで、学校行事や部活動をどのように改善していけば良いか、生徒や保護者の方々、教職員にアンケートなどを通して広く意見を求め、満足度が向上するように工夫する。 ○ 部活動生集会をさらに工夫する。様々な顧問の先生から話をしてもらい、各部の連携をより密にする。 ○ 体験入学の時だけでなく、周辺の中学校と合同練習を行うなど、中学生が本校の部活動に参加できる機会を増やし、入学前からの部活動の PR を活性化させる。
		1 ① 各部が校内外の場所を決定し、清掃活動を行う。 ② 華の丘祭などの学校行事における生徒の満足度 95%以上を目指す。 ③ 生徒会役員があいさつ運動を毎週月・金曜日に実施する。	1 ① 各部清掃場所を決定し、清掃活動を行えた。 ② 生徒の満足度は、華の丘祭が 88%、球技大会は 79%であった。 ③ 毎週月・金曜日にあいさつ運動を実施できた。	(所見) 学校行事については、概ね満足できるアンケート結果が出ている。球技大会については、前期は雨天、後期は体育館の工事もあり、低下したと考えられる。部活動については、活動内容の充実や良い成績を残す部が増えているが、全体的に部員数が減少している。良い成績を残す部が増えるように工夫したい。		
		2 ① 部活動の 12 月時点での入部率 70%以上を目指す。 ② 部活動生集会を年間 4 回以上開催する。	2 ① 12 月時点での入部率(1・2 年生)は 61%であった。 ② 集会を 4, 5, 9, 1 月の 4 回実施できた。			
		活動計画	活動計画の実施状況			
1 ① 生徒会、部活動を中心に、校内外の清掃活動を行い積極的に環境美化活動に取り組む。 ② 華の丘祭が穴高生にとって一大イベントであることを理解させ、積極的参加を促し、成功への意識の高揚を図り、生徒会ならびに各ホームルームの生徒自身が主体的に企画、運営していけるよう適切な指導をおこなう。 ③ 生徒会役員が積極的にあいさつを行うことで、学校全体であいさつからコミュニケーションを図っていく習慣を身につける。	1 ① 生徒会・部活動を中心に、ふれあい橋の清掃活動など、日頃できていない場所を清掃した。 ② 生徒会役員を中心に夏休みの前から実施案を考え計画した。また生徒会役員をサポートするため、華の丘祭実行委員を募集し、さらなる内容の充実と生徒への積極的な参加を呼びかけた。 ③ 91%の生徒が積極的にあいさつできていると評価した。					
2 ① 部活動への積極的かつ継続的な参加を促す。 ② 部活動を通して、所属感、連帯感を体験できる取り組みを工夫し、指導を行う。また、部活動生集会を通して、部活動間の競争意識を高め、学校全体の活性化に努める。	2 ① 部活動生集会や全校集会などで、部活動への積極的かつ継続的な参加を促す声かけを行った。 ② 第 1 回部活動生集会では、部活動生の共通目標を掲げて、部活動生全員が所属感、連帯感をもてるように指導した。第 2 回では総体に向けての結束や創作活動への意欲向上を促した。第 3・4 回では、1・2 年生の新チーム・新組織としての心構えを伝えた。部活動生集会が運営や活動の役に立ったと感じる顧問は 72%、生徒は 55%であった。					
6	生徒の人権意識の高揚や人権感覚の育成を図るとともに、さまざまな場面で人権問題について考えようとする態度を育てる。	評価指標	評価指標の達成度	(評定) B	○ 保護者にいかに興味を持ってもらい、参加してもらえるようにするかが課題である。 ○ 今後も地道に取り組んでもらいたい。	○ 人権問題解消に向けて、人権問題を自分の問題として、自ら考え行動できる生徒を育てるために、人権ホームルーム活動や校内人権の日において、より身近で具体的な事例を取り上げる。 ○ 保護者と連携して生徒の人権教育を実施するためにも、保
		1 校内人権の日に関するアンケートにおいて、「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答する割合が 90%以上を目指す。	1 「とても積極的に取り組めた」「まずまず積極的に取り組めた」と回答した割合 91.1%	(所見) 評価指標については、十分には達成できなかったが、校内人権の日の取り組みや人権問題解消に向けての意欲については、高い割合で維持することができた。人権委員の生徒は、校内人権の日の司会・進行や校内行事の運営に積極		
		2 1月に実施される人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月は71%、1月は69%と、わずかに減少した。	2 人権問題意識調査において、人権問題解消に向けての意欲が、4月は71%、1月は69%と、わずかに減少した。			
		3 1月に実施される人権問題意識調査において、校内での人権学習に「積極的に参加した」「やや積極的に参加した」と回答する割合が 60%以上をめざす。	3 「積極的に参加した」「やや積極的に参加した」と回答した割合 47.8%			
4 1月に実施される人権問題意識調査において、「学校で学習した人権問題を話題として、家庭で人権問題について話したこ	4 1月に実施した人権問題意識調査において、「学校で学習した人権問題を話題として、家庭で人権問題について話したこ					

とがある」と回答する割合が 50 %以上を目指す。	13.7 %	的に取り組むことができた。	護者への情報提供を積極的に行うとともに、生徒を通じた保護者への啓発を行う。
活動計画	活動計画の実施状況	人権教育講演会・人権啓発展への保護者参加数が少なく、また保護者と人権問題について話し合う生徒が少ないことが、活動を通して浮かびあがった。	
1 月 1 回「人権の日」を設け、人権委員を中心として、身近な人権問題を中心にした人権問題学習を実施する。	1 人権委員が司会・進行を務め、計画通り実施できた。		
2 年間 2 回 (4 月・1 月)、人権問題意識調査を実施し、生徒の意識の変化を分析する。	2 計画通り実施できた。		○ 「Together」の紙面に人権問題についての生徒の意見や家庭で話題となるような記事を積極的に掲載する。
3 ホームルームでの人権問題学習や人権に関するさまざまな校内行事において、生徒の関心や実情に合わせた内容を実施する。	3 人権ホームルーム活動は各学年ともに年間 5 回計画通り実施した。5 月 28 日には人権教育講演会を実施し、ハンセン病をテーマにした人権劇『千の舞い～ふるさとへ帰りたい～』を鑑賞した。		
4 人権啓発新聞「Together」を家庭で読んでもらうことができるように、人権委員やヒューマンライツ部を中心とした広報活動を行う。	4 人権ホームルーム活動などの内容や感想を掲載し、年間 3 回発行して家庭に送付した。華の丘祭で人権啓発展を実施し、ヒューマンライツ部の活動報告や「穴高人権かるた」を展示した。		